

コメント

1. インフルエンザ

定点当り2.76人とやや増加しており、3週続けて増加しています。すべての区で、定点当り人以上となっています。

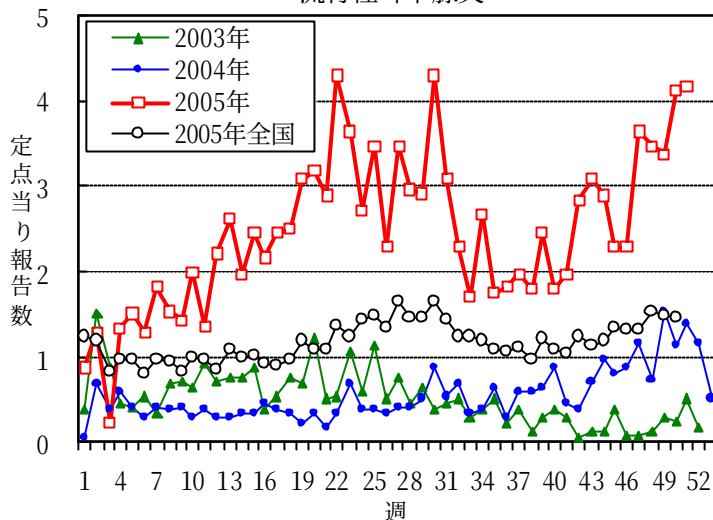
2. 流行性耳下腺炎

定点当り4.17人とほぼ横ばいとなっていますが、多い状態が続いています。佐伯区8.7人、安芸区8.0人、南区5.7人と特に多く、東区4.0人、安佐南区2.5人となっています。

3. 感染性胃腸炎

定点当り19.2人とほぼ横ばいとなっています。安芸区43.5人、南区20.7人、東区20.3人と特に多く、その他の区でも定点当り10人以上となっています。

流行性耳下腺炎



5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均 過去5年間 (注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均 過去5年間 (注1)	発生記号
インフルエンザ (注2)	102	2.76	3.60	↗	麻疹(注3)	-	-	-	↘
咽頭結膜熱	2	0.08	0.18	↗	流行性耳下腺炎	100	4.17	1.11	↗
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	41	1.71	1.55	↗	RSウイルス 感染症	23	0.96	0.10	↘
感染性胃腸炎	460	19.17	18.88	↗	急性出血性 結膜炎	-	-	0.10	↘
水痘	87	3.63	3.28	↗	流行性角結膜炎	5	0.63	1.33	↗
手足口病	8	0.33	0.44	↗	細菌性髄膜炎	-	-	-	↘
伝染性紅斑	-	-	0.17	↗	無菌性髄膜炎	-	-	0.08	↘
突発性発しん	15	0.63	0.82	↗	マイコプラズマ 肺炎	3	0.43	0.26	↘
百日咳	1	0.04	0.05	↗	クラミジア肺炎 (注4)	-	-	-	↘
風しん	-	-	0.01	↗	成人麻疹	-	-	-	↘
ヘルパンギーナ	2	0.08	0.03	↗					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね 1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね 1.5~2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね 1.1~1.5の増減
横ばい	↔		ほとんど増減なし

一時的な変動と考えられる場合は、前週との比較ではなく傾向を示しています。また報告数が少なく傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 37 (小児科定点含む)
小児科定点数 24
眼科定点数 8
性感染症定点数 9
基幹定点数 7

(注1) 過去5年間の同時期平均(定点当り)

(注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く

(注3) 成人麻疹を除く

(注4) オウム病を除く

1類~5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
4	つつが虫病	1	4	女性(60歳代)
5	後天性免疫不全症候群	1	12	男性(40歳代)
5	ジアルジア症	1	1	男性(30歳代)

5類感染症報告状況の推移 定点把握対象分)

		インフル (注1)	咽頭結膜熱 A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギナ	麻しん (注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん
報告数	広島市	第47週	27	3	42	161	61	4	3	13	2	-	1	-	87	19	-	11	1	-	-
		第48週	20	2	56	251	55	4	2	22	1	-	1	-	83	36	-	10	-	1	-
		第49週	42	4	38	320	91	3	4	14	-	-	-	-	81	50	1	9	-	3	-
		第50週	71	2	53	469	91	1	3	9	-	-	1	-	99	49	-	14	-	4	-
		第51週	102	2	41	460	87	8	-	15	1	-	2	-	100	23	-	5	-	3	-
定点 当り	広島市	第47週	0.73	0.13	1.75	6.71	2.54	0.17	0.13	0.54	0.08	-	0.04	-	3.63	0.79	-	1.38	0.14	0.14	-
		第48週	0.54	0.08	2.33	10.46	2.29	0.17	0.08	0.92	0.04	-	0.04	-	3.46	1.50	-	1.25	-	0.14	-
		第49週	1.14	0.17	1.58	13.33	3.79	0.13	0.17	0.58	-	-	-	-	3.38	2.08	0.13	1.13	-	0.29	0.43
		第50週	1.92	0.08	2.21	19.54	3.79	0.04	0.13	0.38	-	-	0.04	-	4.13	2.04	-	1.75	-	0.14	0.57
		第51週	2.76	0.08	1.71	19.17	3.63	0.33	-	0.63	0.04	-	0.08	-	4.17	0.96	-	0.63	-	0.43	-
全国		第49週	0.91	0.36	1.85	14.89	1.99	0.23	0.21	0.66	0.01	-	0.07	-	1.48	0.01	0.79	0.01	0.02	0.45	0.01
		第50週	1.88	0.42	1.92	17.44	2.59	0.23	0.23	0.59	0.01	-	0.05	-	1.46	0.01	0.84	0.01	0.01	0.38	0.01

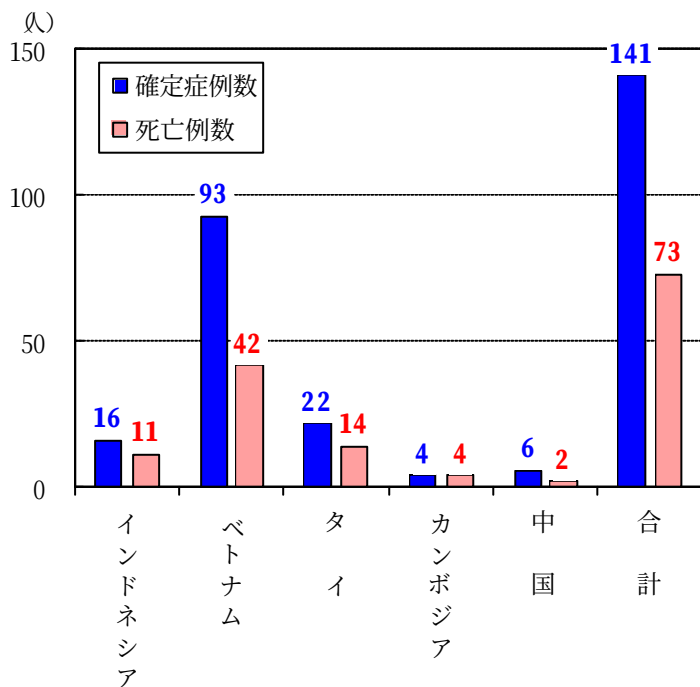
注1) 高病原性鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3) オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	2	女	2005/11/18	咽頭拭い液	アデノウイルス1型
インフルエンザ	7	男	不明	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型

【参考】人の高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) 発生状況

WHO :2003年～2005年



鳥の高病原性鳥インフルエンザ (H5N1) は、2003～2004年にかけて、日本を含めたアジア諸国で発生しました。2005年になっても中国、タイ、ベトナムなどで発生が続いていますが、モンゴル、カザフスタン、ロシア、ルーマニア、トルコなどで新たな発生があり、中央アジアからヨーロッパへと拡大する傾向にあります。

一方、人の高病原性鳥インフルエンザは、グラフに示したように、アジアの5カ国で発生しており、2003年以降、141人の患者が確認され、そのうち73人が死亡しています。WHO確定症例数、2005年12月23日現在)

現時点で、高病原性鳥インフルエンザの人から人への感染は確認されておらず、鳥から人への感染も、病気の鳥と密接に接触した場合が原因で、限定的であると考えられています。

しかし、ウイルスが変異して、人から人へ感染しやすくなり、いわゆる「新型インフルエンザ」として出現し、世界的な流行を引き起こすことが懸念されています。

本週報は、インターネットでもご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

なお、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

この情報の詳細に関するお問い合わせ先

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2005年第51週 (12月19日～12月25日)